

女性委員会通信

224
2016.1.1

東京都港区新橋六 七一 川口ビル六階
全国労働組合連絡協議会 女性委員会
TEL 〇三 五四〇三 一六五〇
FAX 〇三 五四〇三 一六五三

2016年 民主主義と立憲主義を 取り戻す年にしよう！

新年おめでとございます。2015年はアベ政権の暴走で戦後70年と言う年にも関わらず、新たな「戦前」とも言える状況になってしまいました。でも多くの労働者・市民・学生たちが9月19日の戦争法案強行採決以降も戦争法案廃止を求めて声を上げ、行動を続けています。2016年もアベ政権にNO!の声をつき付け、海外での軍事行動を許さない闘いを進めましょう。また2016春闘は「裁量労働制の拡大や高度プロフェッショナル制度の

導入」8時間労働法制の破壊」を許さない闘いの時です。

アベ政権は「女性活躍」を吹聴しますが、残業代もなく8時間労働が破壊されたなら、長時間労働はさらに増え、女性たちは活躍どころか働き続けることも不可能になってしまつてしまうでしょう。

そして今年も参議院選挙の年です。衆参同時選挙もあるかもしれませんが、野党共闘で戦争法案廃止を求める議員を増やしましょう。さらに国会に女性議員を増やしましょう。

全労協女性委員会総会開催

アベ政治NO! 沖繩の闘いから平和と 平等を考える

女性が自立して生きる 職場と社会の実現を

11月27日全労協女性委員会は飯田橋のSKプラザで25回目の総会を開催した。今年のテーマは「平和なくして平等なし」沖繩の今・闘いから平和と平等を語り合おうだ。

第一部は、沖繩の今の闘いをDVD上映で共有し、第二部は女性委員会総



故郷「沖繩」を熱く語る青木さん、議案を提起する女性たちが主体的に働き、

一人の人間として生活できる職場づくりを目指そうと確認した。

お待ちかねの第三部は沖繩一坪反戦地主会関東ブロックメンバーで全国一般東京南部の組合員でもあった青木初子さんの「辺野古のちゅら海をまもろう」と題しての報告だ。

1972年5月15日の復帰の6年前にパスポートを持って「日本」に来た、やんばるの本部（もとぶ）出身の青木さんは、「沖繩の歴史、人々の生活、日本の差別的扱い」などを熱く語ってくれた。

沖繩文化の劣等意識植付けの標準語励行の経験、改名改姓運動ではお母さんが「かまてい」という名から「やすこ」に変わった、女性が大人になったことを示す手への入れ墨は青木さんの叔母さんに当たる方にもあった、叔父さんは移民した事など、これまで聞くことが少なかった沖繩の人々の日常生活の話に引き込まれた。

さらに1879年の琉球処分（明治政府が行なった沖繩の廃藩置県で、琉



第4部交流会は和やかに行われた

球王国が崩壊し沖繩県が設置された）や、沖繩戦、米軍統治、1956年まで岐阜・山梨にあつた海兵隊の沖繩への移設、それ以降の基地の集中、その後の日本復帰などの歴史的事実も明快に語ってくれた。

そして、日米安保にも沖繩の参加はなく蚊帳の外であり、基地の74%が集中している現状、2014年の国連の人種差別撤廃委員会からの沖繩の人々を「先住民として権利保護せよ」との勧告の無視、オール沖繩の「建白書」無視など今も貫かれている沖繩差別、さらに「日本人は日本の安全保障をどう考えるのか」等の問いかけもあった。

最後に生物多様性の宝の海、辺野古・大浦湾には基地を作らせないとというオール沖繩の民意、島ぐるみのたたかひについて予定時間を大幅に超えた熱い語りは講演というより友人の話を聞いているような親しみのあるもので、心にしみた。

第四部は軽食をとりながらの交流会、木下孝子さんからは34年と闘争終結報告、浜松の岡本さんからは遠州ユニオンで取組んでいる外国人女性へのマタハラ問題への取組、郵政ユニオンの国富さんからは郵政職場の実態、東京労組メトロセルビス支部からは労災の闘いの報告などが続いた。青年委員会からも参加があり、今年も盛りだくさんで時間が足りなかった。（竹内）



全労協女性委員会第25回総会で議案を討議

JG 83 キャンペーンが キックオフ



JGとは女性議員の略、83は現状の国会における女性議員数だ。717人中83人

しか国会には女性が少ない、たった11.6%だ。意思決定の場に30%の女性をという目標にほど遠いし、今や国連では男女50・50の実現に向けて動き出している。

キャンペーンでは女性議員を倍増させようと12月23日キックオフ集会を行った。

戦争法と原発再稼働に反対し、夫婦同姓の強制など問題の多い民法改正に賛成が基本条件で3人以上の推薦する人物を募集中だ。(Y)

最高裁、選択的夫婦別姓を認めず・時代遅れに啞然

12月16日15時から最高裁で民法に関する2つの事件の判決があった。国連の委員会からは正を求められている女性に対する待婚期間の廃止と選択的別姓の実現を求める事件で、11月に大法院で弁論が開かれ違憲判決が期待されていた。しかし待婚期間については100日を超える分は違憲と判断したが、選択的夫婦別姓については、同姓を規定する民法は合憲と上告を棄却した。

5人の原告たちは国会での法改正を求め運動したものの実現せず、司法判断を求めて提訴したのに、最高裁は改姓した側の不利益を認めながら判断を放棄し、国会で論ぜられ判断すべきと国会にボールを投げ返した。全員が別



12月16日、別姓訴訟判決報告会(別姓訴訟を支える会HPより)

私のお気に入り

私のお気に入りは植木の世話と散歩です。十代の頃に故郷の岩手から東京に出てきました。それ以来、寂しい思いを紛らすために小さな植木鉢にいろいろな草花を植えて楽しんでます。そして、毎日近くの中川の土手を散歩するのも職場を雇止めされてからの日課になっています。中川の土手にも季節によって「ツツジ」や「向日葵」が咲き、そして幼い頃「コケッコの花」と親しみを込めて呼び、花びらを二つに裂いて鼻の頭にくっつけて鶏のマネをして遊んだ「立葵」などの花たちと出会うのも楽しみです。

今年は暖かい日がつづくため、「椿」「水仙」「シクラメン」「シンピジユウム」など1月から2月に咲く花々が、もう咲き始めています。かわいい草花たちは手をかければかけるだけ応えてくれます。また、中川の川風を感じながら応援してくれる仲間たちのことを思い頑張ろうと心に思う毎日です。



私は東京メトロの地下鉄清掃の職場で、1年契約の「特定職社員」と呼ばれる非正規労働者として12年働いてきました。2013年4月、仕事に顔を強打し複視(二重に見える)となり、上司に労災にしたいと相談したら雇止め解雇を通告され、その年の8月に労働組合を公然化しました。現在、都労委で会社と争っています。皆さん応援してください。

全国一般東京労組メトロサービス分会 倉田テル子



JAL不当解雇撤回 165名の被解雇者を激励する12・25大望年会へ100名以上が結集し、早期解決を大きく望み、団結を固めあった。

姓になるのではなく別姓を選ぶカップルを認めてほしいというにすぎないのに、どうして多様なあり方を認めることができないのだろうか。
当日は歴史を刻む判決を期待しただけに最高裁の時代遅れに啞然とする思いだ。だが判決は15人中女性3人を含め5人が反対意見をつけた。
合憲と判断した10人は裁判官が検事の出身だ。裁判官にはもともと国際条約や人権について勉強してほしいものだ。(Y)

フジビ闘争にご支援を

フジビ闘争は、11月19日に都労委の和解協議を決裂させ、翌日20日に支援共闘会議役員らとともにフジビへ抗議申入れ行動を行ってきました。

写真(左)は12月1日、東部総行動で社前で抗議行動を行ってきました。

2月22日に支援共闘会議第3回総会を開催しますので多くの仲間の皆さんに結集をお願いします。



2月10日にはこの解雇争議に対して起こされたスラップ訴訟の判決があります。引き続きフジビ闘争にご支援をお願いします。